FACULTY OF LAW

北海学園大学

法学部報

2011.8.20
No.25

http://www.hokkai-s-u.ac.jp

法学部講演会
法学部カフェ

「法学部カフェ」開店しました。

法学部カフェ店長　樽見弘紀

第2回法学部カフェ（7月9日）

対談中の安田侃先生（左）と田口晃先生（右）

先の 6 月 11 日（土）、本学 7 号館 D31 教室に上田文雄札幌市長をお招きして、栄えある第 1 回の「法学部カフェ」が店開きした。有り難いことに、学生、教職員、一般の方々がバランス良く混ざって立ち見も出るほどの盛況ぶり。「さっぽろの路面電車の未来」をテーマに熱心な意見交換が行われた。当日は偶然にも市長の誕生日に当たることを聞きつけた若い広報担当教員が入念に計って、秘密裡にその瞬間を準備。ご公務忙しい市長が退席されるぎりぎり 5 分前に、参加者全員での Happy Birthday の大合唱が会場にこだました。カフェの店員に扮した学生から花束を受け取ると市長は破顔の笑みまで振りまいて下さった。そのサービス精神に嬉しいやら、申し訳ないやら……しばし俯き加減の店長であった。

続く 7 月 9 日（土）の「第 2 回法学部カフェ」は大学を飛び出し、美唄市にある芸術公園「アルテピアッツァ美唄」に、美唄出身でイタリア在住の世界的彫刻家・安田侃さんを訪ねて開催した。「アルテピアッツァ美唄に流れる時間とは」をテーマに、安田侃さんがこの地でのアート空間づくり 20 年に寄せる思いと悪戦苦闘ぶりを軽妙に語られた。また、第 2 部では田口晃法学部教授との対談が行われた。かつて炭鉱最盛期には 9 万の人口を誇った美唄市も、現在の居住者は 2 万 6 千人を割り込む。しかし、

誕生日の花束を受ける上田文雄市長

第1回法学部カフェ（6月11日）

この日だけは会場に詰めかけ多くの安田彫刻ファン、アルテピアッツァ応援団のひといきれで、一時まちに賑わいが戻ったように感じたのは店長の欲目だろうか。

さて私事、法学部長を拝命して早いもので半年が経とうとしている。学部長になり立ての頃は、研究者としてもアドミニストレータとしても経験の乏しい自分でやり切れるのか、と布団のなかで悶々と考えた。寝つきの悪い夜を幾晩か過ごしたのち、「出来ないことは出来ない、出来ること、いくらか得意なことから一つひとつやろう」とのひとまずの結論に達すると、眠ることを早々に切り上げて、未明の朝風呂に入った。6 ケ月ほど前のことが僅か 6 日前のことのように思える。

数少ない「いくらか得意なこと」のひとつが学部の広報ではないか、と若干の自得の念を持っている。「法学部カフェ」は、久々にリニューアルなった本法学部報と並ぶ法学部広報の目玉である。「カフェ」であるからして、肩にちからの入ったガチガチのテーマは馴染まない。さりとて、せっかく「法学部」に集う多分野の教員の持てる知見を惜しみなく、いかんなく開陳していただきたくもある。ここまで 2 回のカフェではいずれも来場者が百人を大きく超えたので依然として実現出来ないでいるが、いずれお茶やお菓子などもご用意して、気軽に、しかし真剣に議論する新しい公共空間づくりを学内外で地道に展開出来れば、と考える。本誌読者のみなさまには私ども教員に気軽に、不断につながっていただく恰好の機会としての法学部カフェ。私ども教員にとっては、学生や親御さんや地域の方々と胸襟を開いて語り合える場としての法学部カフェ。思いばかりが先走るカフェ店長に今後もお力添え、ご助言等いただければ大変嬉しく思います。

（法学部教授：担当は「公共政策論」）

第14回
市民公開講座

市民公開講座を終えて

企画・司会責任者 大西有二

左から中村誠也先生、内山敏和先生、韓永學先生、大西有二先生

講座開催日の直前、参加を申し込まれた方の数が 14 名と聞き、正直焦りました。これまでの経験では、100名近い方々の参加を得ていたからです。なにが良くなかったのか？　日程か？　テーマ自体か？　広告宣伝の方法か?などなどと思いをめぐらしても、これといった原因は分からぬまま、当日を迎えました。幸い、来場者は直前の数字を越えて24名でしたので、それほどがっかりすることもなく、本番開始となりました。

まずは中村弁護士の登場です。中村先生は北海学園大学法務研究科、つまりロースクールでも教えておられ、今回のテーマを「NHKの受信料」に設定したのも、中村先生が「受信料」訴訟に携わっておられたからです。期待通り、法実務のお話が満載のご講演であり、訴訟遂行上の失敗談に会場は笑いで包まれました。

つづいて内山先生です。受信料契約を消費者契約と見立て、消費者保護の観点から適用されるべき法条を検討されました。しばしば会場を爆笑の渦に落とし込んだその語り口は絶妙で、まさに「内山節」と名付けたいほどです。

最後にご登壇いただいたのは、ジャーナリズム論の韓先生です。ご講演の内容は、新聞特集記事を引用されつつ、NHK という仕組みの紹介から外国との比較にまで及ぶもので、とても充実していました。さすが「マスコミ論の専門家」といった印象を強く参加者に与えておられました。

講演会の後、自由な意見交換に移りました。きわめて印象深かったことは、多くの参加者が発言されたことです。これまで経験した中で、もっとも充実した議論になったと思います。アンケートでも、最も興味深かった企画は最後の質疑応答だという結果が出ました。後日知ったことですが、NHK の関係者だった方もいらっしゃいました。意見交換の最後に、司会者の特権を利用して、学部長挨拶のためにご来場の樽見先生にコメントをお願いしたところ、アメリカの状況を踏まえ、自由な競争環境の中で、視聴者が放送局を自由に選ぶ仕組みが望ましい旨のアイディアが紹介されました。企画者としては、学部長としてご多忙のゆえと遠慮することなく、樽見先生にもご登壇頂くべきだったとつくづく反省しています。

最後に、今回、「受信料訴訟」の一方当事者である NHK 様にもご講演の依頼をしましたところ、具体的な裁判のお話しは法廷で主張するとの理由で、丁重にお断りされましたこと、ご報告致します。

講演者の皆さま、裏方の事務の皆さま、なにより参加頂いた学生、市民の皆さま、ほんとうにありがとうございました。

（法学部教授：担当は「行政法」）

Student's Interview

震災ボランティア

秋元 智絵 さん
法学部３年生

田中 恵理華 さん
法学部３年生

南 拓磨 くん
法学部２年生

法学部では東日本大震災を受けて、現地で支援活動を行いたいという学生の要望に応え、今年の 4 月から「NPO インターンシップ」制度に「震災ボランティア」を組み込みました。多くの学生が被災地で実際に活動しましたが、本号ではその中から釜石で活動した 3 名の法学部生（秋元智絵さん（3年）、田中恵理華さん（3年）南拓磨くん（3年・本号表紙））にその体験を語ってもらいました。

木寺 元（法学部准教授：担当は「地方政治論」）

ボランティアを志すきっかけ

田中　震災当日は、家でテレビを見てあまりの惨状にびっくりしました。同じ日本にいる者として何か力になれることはないかと思っていたところ、NPO インターンシップの応募の掲示板を見て、「今しか行けない」と思いました。

田中 恵理華 さん

秋元　私も同じです。でも、同時にすごく迷いました。

南　父親が仙台に単身赴任していて、地震直後はものすごく心配でした。最初は電話しても通じませんでしたし。説明会で話を聞くうちに、ボランティアが必要だということが分かりました。また、千年に一度の災害をこの目で見て、伝えられることもあるのかなと思いました。

秋元　現地ではボランティアは全然足りていませんでした。釜石に行ったんですが、瓦礫のところまで手が回っていないですね。

南　ボランティアがたくさん活動しているように報道していますが、実際はまばらです。

秋元　私たち三人は、普段は道内で自然学習をやっている NPO「ねおす」の一員として三泊四日の日程で活動しました。

田中　現地の活動の中心となっている「ねおす」の女性メンバーの実家が釜石で、実家が流されてしまったそうです。

現地まで

秋元　私は 6 月の下旬に田中さんと一緒に活動しました。苫小牧から船で一泊して秋田港に入り、そこから 4 時間くらいかけて支援物資を積んだ車に同乗して被災地へ行きました。

南　僕は 5 月の下旬に行ったんですが、秋田からはバスで十数名のボランティアの人たちと一緒に被災地へ向かいました。

田中　移動中の食事は持参で、現地では自炊でした。

南　自分たちは集落の人が郷土料理をふるまってくれました。ボランティアに来て、いいのだろうかと思いましたね（笑）

秋元　寝泊まりは数年前まで保育園だったところに他のボランティアさんと雑魚寝でした。

南　自分たちも地区の集会場のようなところでした。

釜石の様子

南　橋を渡った瞬間に景色が一変する。橋まではパチンコ屋も営業している。でも、橋を渡ればがれきの山。ここまで津波が来たのかということがすぐわかりました。

がれきに立って、考えた。

南 拓磨 くん

田中　6 月の下旬でも、被災した状況がほとんどそのまんまの形で残されていて、いつ終わるんだろう、先が見えない状態でした。

秋元　仮設住宅も、町中はがれきの山で，便利なところでは建てる場所がない。だから不便なところにしか建てられない。瓦礫をとにかく片づけないと、どうにもならないですね。

活動内容

田中　活動内容も、常にニーズが変わるんですよね。言った月で違う。私たちは生活用水の流れる川のヘドロや瓦礫の除去をやりました。

南　僕たちは旅館周辺や線路の瓦礫の撤去がメインで。作業していると写真とか出てきて。洗って返すんですけど。服とか、布団とか、とにかく生活用品が本当にいろいろなんでも。

田中　文集とか領収書とか。そんな中、がれきの中にも蟻とかいろんな幼虫とか、いろんな命が在って、そんな自然に驚き、びっくりしました。

秋元　作業は役割を分担して行いました。ヘドロをスコップですくう人と、土のうの袋の口を開ける人、土のうを運ぶ人…。

田中　比較的被害の程度が軽い被災者の人たちもたくさん作業をしていました。被災者が被災者を支援するということに驚かされました。

南　最初は慣れなくて。スコップとか。足場が悪いから苦戦するんですよね。一生懸命やって、だんだん慣れてきて、作業の進み具合もよくなって。奇麗になると、うれしいですね。

田中　服は基本的には持参で。持ち物はびっくりする位あるけれど、現地のニーズはすぐに変わるので、一番危険なことでも対応できるように、相当たくさんの荷物を持っていきました。

秋元　作業服、マスク、長靴…、それでも使わなかったものはないですね。

南　マスクは、最初は風邪用の物をもっていったんですが、全然役に立たなくて。風が吹くと粉塵というか。目薬やゴーグルは必須でした。

秋元　マスクはヘドロの匂いが強烈で外せないですね。暑いから外したくなりましたけど。

田中　ヘドロや瓦礫の中には釘とかがまだたくさんあるので、どんなに気をつけても怪我をする人は出てきてしまいました。

現地の様子

田中　津波にのまれると、洗濯機の中に巻き込まれたようになって、服が脱げるというんですよね。それで、まだ木に係っている服を見ると怖くなって…。現地の人も、ふとした拍子にいろいろ話してくれました。

秋元 智絵 さん

秋元　津波に流されたとき「助けて」と叫ぶ人たちの中に、手をふって笑って流された男性がいたという話を聞いて、どういう気持だったんだろうと。

田中　明るくふるまう人と、ストレスで一日ボーッとする人もいました。水たまりが怖い子供もいるそうです。

南　海を見ると吐いてしまう人とかも…。

帰ってきて

南　やっているときは大変だとは感じなかったんですが、札幌駅を見た瞬間にどっと疲れが。気持ちが張りつめていたんでしょうね。

田中　行った時よりも、帰ってきたときに、そのギャップに衝撃をうけました。

南　現地は当たり前のことが当たり前じゃないですし。札幌は、蛇口をひねれば水が出る、お腹がすけばコンビニもある。携帯も繋がる。

最後に

南　3 泊 4 日でもできることが現地にはたくさんあります。活動後の反省会でも、いろんなことに気付かされました。その場で聞いた「地道なことを馬鹿にしない」という言葉が心に残っています。

秋元　反省会では「自分達ができた事は 1%で、現地から 99%与えてもらった」と言う他のメンバーがいて、私もそれに共感しました。これから何ができるか考えています。今出来ることをしていきたい。

田中　行かなければわからない事はあります。無理して行けとは言わない。でも行けば知ること感じることがたくさんあります。テレビで報道されていることと違うこともたくさんあります。実際に見てきた現地の状況…それを知らせるのが私達の役目だと思います。

南　行きたいと思うのならば行くべきだと思います。得るものは必ずあります。

（第4回法学部カフェへ続く）

浅野高宏

ゼミとビールとお酒と鍋と

タイトルの由来

最近みた DVD に「ヤギと男と男と壁と」(2010 年劇場公開作品、主演ジョージクルーニー、ジェフブリッジス、ユアンマクレガー、ケヴィンスペイシー、ヤギ）という映画があります。内容としては、「なんじゃこの映画?!」という感じだったのですが、邦訳タイトルのゴロが気に入り、「研究室訪問」のタイトルも標記のようにしました。

私にとっての「研究室」(学部生編)

学部生時代は学部の 1 学年だけみても 1000 人超のマンモス校ということもあってか教授の「研究室」を訪問するなどということはありませんでした。私が学部生時代所属していたゼミも他校から非常勤でいらっしゃっていた先生が主催するゼミでしたので、なおさら「研究室」に行く機会が少なかったのかもしれません。当時、研究者をめざしていたわけではなく、もっぱら司法試験の受験勉強に打ち込んでいた私は一度も大学教員の「研究室」を訪問しないまま卒業を迎えました。このころは「研究室」とは自分にとって縁遠く敷居の高い場所だったと思います。

私にとっての「研究室」(卒一・院生編)

学部を卒業後、残念なことに司法浪人の身となった私は、地元の北海道（といっても実家は旭川ですので狭義の地元ではないのですが）に戻り、北大の図書館を利用しながら試験勉強を続けていました。このころ北大の図書館を日常的に利用するには、教授の許可が必要でした。そこで、高校時代の同級生のつてを頼って道幸哲也教授の「研究室」を訪ねたのがはじめての「研究室」訪問でした。私は司法浪人の身分でしたが道幸教授は温かく北大のゼミに迎えてくださり、いわば傍聴生として労働法ゼミで議論をするようになりました。

ここで、まさにカルチャーショックを受けたのは、道幸ゼミではゼミ終了後、かなりの人数のゼミ生が研究室に向かい、そこで教授を囲んで冷えたビールや日本各地の銘酒を飲み、冬ともなれば鍋を楽しんでいるということでした。はじめて体験したときは「なんじゃこりゃ?!」と思いましたが、毎週参加しているうちに、学部生時代、縁遠い存在だった「研究室」は一気に身近な場所となり、私にとって憩いの場所となりました。その後大学院へと進むことになったのは「研究室」の居心地のよさが大きく影響しました。

私にとっての「研究室」(現在)

その後、労働法を勉強すれば「研究室」で飯を食べられるという学生時代の原体験に忠実な生き方を選択し、弁護士になってからも労働事件を多く扱う事務所に所属し、研究活動も継続してきました。私の原体験は今文字通り現実のものとなり、本学に労働法教員として迎えていただき「研究室」を与えられました。私は今、1 部基礎ゼミと 2 部の専門ゼミを受け持っています。さすがに私の学生時代のように「研究室」での鍋をやるというわけにはいかないですが、私の「研究室」がいろいろな意味でゼミ生にとってのホームグラウンドと思えるような場所になって欲しいと願っています。

おわりに

タイトルを考えているだけで原稿締め切りを 2 週間もオーバーしてしまいました。他方、タイトル考案時間に比して、本文を書くのに費やした時間は切なくなるくらい短くなってしまいました。今、頭の中で、「論文にせよ、原稿にせよ、実際の訴訟でも、主題の設定が一番大事」という言葉をリフレインしています。ただ、読み返してみると、言うほどタイトルを原稿内容に活かしきれていないのと、結局、徒然なるままに書いていることがよくわかります。やっぱり一番大事なのは、締め切りを守ることかもしれないですね。

（法学部准教授：担当は「労働法」）

もっと知りたい Q&A

Editor's Notes #001

岸上 祐史

1976年札幌市生まれ、2000年北海学園大学卒業後、
中西印刷株式会社入社、北海学園大学法学部報担当

私が考える法学部報

Q1 岸上さんには、11年間法学部報を担当していただいておりますが、どのような仕事をされていますか。ご苦労されたエピソード等も教えてください。

編集委員の皆様とデザイナー、カメラマンとの連絡調整や「法学部報」の工程管理を行っています。皆さんプロフェッショナルですから仕事に向かう姿勢や情熱など日々勉強させていただいています。10年前、初ボーナスで一眼レフカメラを購入して私が写真撮影していたことも今は昔。

Q2 岸上さん以外には、どのような方が法学部報を支えていますか。デザイナー、カメラマンについてもご紹介ください。

デザイナーの畠山デザイン制作室（清藤さん）はすごいですよ。格好良くしたいなら彼女の言う通りにしないと。カメラマンの札幌コマーシャルフォト（芦田さん）は一瞬で被写体の魅力を引き出す天才。最高のスタッフが法学部報をつくってる。そう思う。

Q3 法学部報にはどのような魅力がありますか。

ぶれない、揺るがない強さ。法学部報には歴史ある法学部、新しい法学部すべてが詰まってる。経営学部のパッセージも素晴らしい学部報ですが、それぞれの学部のカラーがあっていいですよね。

Q4 過去の記事の中で、「これは面白い!」記事は何ですか?

僕は研究室訪問が好きですね。毎号っ！　教員だって人間だ！　人間は人間から学ぶんだなぁって。

Q5 今回のリニューアルについてどのような感想をお持ちですか。

辛いこともありましたが･･･。全てはより良く進化してゆくために。

Q6 最後に、学園 OB として在学生に対するメッセージをお願いします。

卒業したら書籍印刷、出版などご相談くださいね。

新任教員のご紹介

後藤　聡 先生

1984年　東京学芸大学教育学部初等教育教員養成課程（理科選修）卒業
1985年　東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程学校教育専攻 教育心理学講座教育心理学第一分野修了
天使女子短期大学を経て、現職

谷川 伸幸 先生

1973年　明治大学文学部史学地理学科日本史専攻 卒業
1976年　明治大学大学院文学研究科修士課程史学専攻日本史専修 修了
熊石高等学校、札幌西陵高等学校、旭川東高等学校の教頭、足寄高等学校の校長等を経て、現職

淺野 高宏 先生

1998年　早稲田大学法学部卒業
2001年　北海道大学大学院修士課程専修コース 終了
安西・外井法律事務所、野田信彦法律事務所勤務（第一東京弁護士会から札幌弁護士会へ登録替え）を経て、現職

〈キリトリ〉

切手をお貼り下さい

〒062-8605
札幌市豊平区旭町4-1-40
北海学園大学法学部
「法学部報」編集係 行

〈キリトリ〉

お名前

ご住所

お電話

※以下のあてはまる項目の□にチェックをいれてください。（複数回答可）

あなたは
□ 在学生　□ 在学生の父母　□ 卒業生
□ 法学部進学を検討中　□ 教職員
□ その他（　　）

2012年度 法学部各種入試一覧

課題小論文特別入学試験

募集人員：2部法学部 30名
出願期間：2011年11月1日（火）から
［郵送］10日（木）消印有効
［窓口］11日（金）16時締切
試 験 日：2011年11月27日（日）

社会人特別入学試験

Ⅰ期（面接）
募集人員：2部法学部 20名
出願期間：2011年11月1日（火）から
［郵送］10日（木）消印有効
［窓口］11日（金）16時締切
試 験 日：2011年11月27日（日）

Ⅱ期（面接・小論文）
募集人員：2部法学部 面接 20名 小論文 14名
出願期間：2012年2月14日（火）から
［郵送］22日（水）消印有効
［窓口］24日（金）12時締切
試 験 日：2012年3月3日（土）

法学部編入学試験（3年次編入）

募集人員：1部法律学科　推薦を含め20名
1部政治学科　推薦を含め10名
2部法律学科　若干名
2部政治学科　若干名

Ⅰ期（一般・推薦）
出願期間：2011年9月28日（水）～10月7日（金）
試 験 日：2011年10月22日（土）

Ⅱ期（一般・推薦）
出願期間：2012年1月27日（金）～2月6日（月）
試 験 日：2012年2月25日（土）

大学院法学研究科入学試験

●修士課程
募集人員：法律学専攻　7名
政治学専攻　5名
（一般・社会人特例選抜入試）
法律学専攻・政治学専攻

Ⅰ期
出願期間：2011年9月9日（金）～22日（木）
試 験 日：2011年10月12日（水）

Ⅱ期
出願期間：2012年1月18日（水）～27日（金）
試 験 日：2012年2月17日（金）

※学内推薦制度もあります。

●博士（後期）課程
募集人員：法律学専攻　2名
政治学専攻　2名
（一般・社会人特例選抜入試）
法律学専攻・政治学専攻
出願期間：2012年1月20日（金）～2月1日（水）
試 験 日：2012年2月18日（土）

出願資格、必要書類などについてのお問合せ先

［社会人特別入試］
入試部
電話 011-841-1161（内線2210）

［それ以外の入試］
法学部事務室
電話 011-841-1161（内線2228）
FAX 011-824-7729

秋からの「法学部カフェ」

第3回 法学部カフェ
「国際環境NGO グリーンピースの挑戦 ―ノンフロン冷蔵庫から放射能監視まで」

話し手：鈴木かずえ
（グリーンピース・ジャパン
エネルギー／核問題担当）
聞き手：本田宏（法学部教授）
日時：10月1日（土）13：30～
場所：7号館D31教室

第4回 法学部カフェ
「誰のため？ 震災ボランティア」

話し手：法学部震災ボランティア体験学生
聞き手：木寺元（法学部准教授）
日時：10月15日（土）15：00～
場所：カフェ・エストラーダ
（豊平区水車町5-2-26）

第5回 法学部カフェ
「英語で議論してみる 震災問題」

話し手：※追って通知
聞き手：上野之江（法学部教授）
日時：11月19日（土）15：00～
場所：カフェ・エストラーダ
（豊平区水車町5-2-26）

マークは、コーヒーを片手に。

Contents

□「法学部カフェ」開店しました。
□ 市民公開講座を終えて
□ 学生インタビュー 震災ボランティア
□ 研究室訪問 ゼミとビールとお酒と鍋と
□ もっと知りたい Editor's Notes

※上記で面白かった記事、気になった記事等の□にチェックをいれて、ぜひご感想をお寄せください。次号以降、紹介させていただいたり、今後の法学部報づくりの参考にさせていただきます。

Comments

北海学園大学法学部報
第25号［2011年8月20日発行］

発行：北海学園大学法学部
〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
TEL：011-841-1161（代） FAX：011-824-7729

印刷：中西印刷株式会社
デザイン：畠山尚デザイン制作室
写真撮影：芦田和義（札幌コマーシャルフォト）
モデル：南 拓磨（法学部2年生）
企画・編集：木寺 元、石月真樹、千葉華月、樽見弘紀